

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100446	
法人名	株式会社 やさしい手府	
事業所名	やさしい手 グループホームこうふ西	
所在地	山梨県甲府市上石田1-8-23	
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和2年1月30日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

等施設の基本理念は「こころを紡ぐ絆」となっております。この理念を基にご利用者、ご家族、地域の方との関わり方が最も重要だと考えております。その為には職員がスキルアップできる場として勉強会の実施や研修に積極的に参加できる体制作りをしております。又、得た知識をフィードバックしご利用者へ質の高いサービスができるように日々努力しております。ご家族を巻き込んでの月1回以上のイベントや地域のイベントへの参加も継続して行っております。御利用者の身体機能の低下を防ぐため個別運動プログラムを作成し運動内容を精査しながら継続しております。できる限り自分で歩いて、自分で生活できるように…を目標に。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市の中心地に近く、交通の便も良い。近隣に県立美術館や芸術の森公園、スーパー等がある利便性の良い場所である。鉄骨3階建ての1階と2階部分に2ユニットの事業所が設置され3階は会議室になっている。敷地内には同社が運営する訪問介護、通所介護、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護の事業所が隣接している。開所7年を迎え、天窓や日当たりの良い間取りから、事業所内は明るく空調や床暖房など設備が整っている。「こころを紡ぐ絆」を理念とし、利用者、家族、職員、地域がつながり、絆を深めることを日々の支援に活かせるよう心掛けている。また、隣接の事業所と連携し共同作品を製作したり、ボランティアの交流、防災訓練等の協力体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

〔セル内の改行は、(Alt+Enter) + (Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「ころを紡ぐ絆」をモットーに何をすべきかを入社時の初任者研修で伝えたり、ミーティング等で理念を基に話し合ったり、して共有し実践できるようにしている。又、理念を書いた紙をフロアーの職員カウンターの壁に掲示し目につくようにしている。	事業所の理念「ころを紡ぐ絆」をモットーに何をすべきかを入社時の初任者研修で伝えたり、ミーティング等で理念を基に話し合ったり、して共有し実践できるようにしている。又、理念を書いた紙をフロアーの職員カウンターの壁に掲示し目につくようにしている。	開設時に、全職員で事業所独自の理念を考えた。在宅等からグループホームに入居することになった利用者や家族の思いに寄り添い、家族との絆を大切に生活できるように支援している。月1回のミーティングでは利用者や家族へのアセスメントを基に話し合い、支援計画にも反映しながら、日々のケアで実践できるように職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	毎月の回覧板を地域の方から頂き、参加できる行事などにはご利用者と参加して少しでも交流ができるようにしている。施設の周りを散歩しながらご近所の方と言葉を交わしたりして交流できる場を設けている。	毎月の回覧板を地域の方から頂き、参加できる行事などにはご利用者と参加して少しでも交流ができるようにしている。施設の周りを散歩しながらご近所の方と言葉を交わしたりして交流できる場を設けている。	自治会に入っていないが、組長さんの協力で回覧板の情報を得ている。地域で開催する文化祭や夏祭りに参加し、文化祭には作品を展示している。職員で構成する地域密着委員会があり年間計画を作り、ボランティアの受入れをしている。学生の現場実習受け入れ、保育園児や高校生との交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成員の方にテーマを設けミニ勉強会と称して認知症への理解をしてもらえるように隔月実施している。	運営推進会議の構成員の方にテーマを設けミニ勉強会と称して認知症への理解をしてもらえるように隔月実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見はできる限り実践できるように取り組み方などミーティング等で話し合い、サービスの向上に受けられるように活かしている。	運営推進会議で出た意見はできる限り実践できるように取り組み方などミーティング等で話し合い、サービスの向上に受けられるように活かしている。	会議は2か月に1回開催し、家族、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、他の事業所職員等が出席し、意見交換している。毎回テーマを決め勉強会、事故報告、身体拘束等を話題提供し、出席者から意見を聴いている。地域の情報を得て、事業所の取り組みの参考にしていく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑義夜質問が生じた時は連絡を取らせて頂いている。書類の提出時は市へ赴き定期的に足を運ぶ事で関係強化に努めている。認知症のボランティアの研修も受け入れており色々な面で連携できるようにしている。	疑義夜質問が生じた時は連絡を取らせて頂いている。書類の提出時は市へ赴き定期的に足を運ぶ事で関係強化に努めている。認知症のボランティアの研修も受け入れており色々な面で連携できるようにしている。	運営推進会議の議事録や書類提出時に、定期的に出向いて担当者と直接情報交換している。年2回、市が実施している認知症ボランティア研修の現場実習を受け入れており、1回に2～3人の研修生が来所している。その他、毎月1回介護相談員の訪問がある等、日頃から市との連携を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束審議会にて会議を3か月に1回開催。年に3回以上は勉強会を開催している。夜間の玄関の施錠以外は日中は施錠せず、ご利用者が自由に行き来できるような環境にしている。	身体拘束審議会にて会議を3か月に1回開催。年に3回以上は勉強会を開催している。夜間の玄関の施錠以外は日中は施錠せず、ご利用者が自由に行き来できるような環境にしている。	管理者、ケアマネジャー、各ユニットの職員で構成する身体拘束審議会を3か月に1回開催し検討した内容は引き継ぎノート、朝礼、ミーティング等で共有している。年3回の勉強会や事業所全体研修も実施。スピーチロックに配慮し、玄関にセンサー等を設置せずに職員相互の連携で、利用者を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と関連し、月に1回のミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。弱体を通報する義務があることを認識し、職員間でも注意や指導ができる関係性ができている。	身体拘束と関連し、月に1回のミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。弱体を通報する義務があることを認識し、職員間でも注意や指導ができる関係性ができている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束と関連し、月に1回のミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。	身体拘束と関連し、月に1回のミーティング時に勉強会や意見交換を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はは改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等に関しては契約時に重要事項説明書を介して丁寧に不備が無いように説明している。改定時には事前に口頭で連絡を行ない、その後十分な説明と同意を得られる様にしている。	契約の締結、解約等に関しては契約時に重要事項説明書を介して丁寧に不備が無いように説明している。改定時には事前に口頭で連絡を行ない、その後十分な説明と同意を得られる様にしている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年一回、顧客満足度調査を実施。蟻家族の意見要望などを知ることができ、その内容をミーティング等で職員に報告。改善点を話し合い、運営に反映させている。	毎年一回、顧客満足度調査を実施。蟻家族の意見要望などを知ることができ、その内容をミーティング等で職員に報告。改善点を話し合い、運営に反映させている。	顧客満足度調査で出た意見について検討し、改善が必要な事項があれば対策を検討している。職員間の情報を密にするために、パソコン、引き継ぎノート、ライン等を活用したり、職員確保の取り組みを行う等対応している。日頃から、面会時には家族とのコミュニケーションを密にし、要望や意見を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月1回のミーティングで職員の意見を吸い上げたり、定期的な面談で職員の思いをくみ取る機会を設けている。	毎日の朝礼や月1回のミーティングで職員の意見を吸い上げたり、定期的な面談で職員の思いをくみ取る機会を設けている。	朝礼やミーティングの機会に職員の意見を聴き、ケアについて検討、共有している。非常勤職員は年2回管理者との面接、常勤職員は年1回部長等の面接を実施し、勤務体制、備品等について協議し、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との日々のコミュニケーションを図ったり、定期的な面談を行ない、人間関係、職場環境などの問題点など思っている事を聞きだしたり、不満や不安をできるだけ解消できるように努めている。	職員との日々のコミュニケーションを図ったり、定期的な面談を行ない、人間関係、職場環境などの問題点など思っている事を聞きだしたり、不満や不安をできるだけ解消できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、現場研修、ウエルカム研修、認知症実践者研修、オープン研修など様々な研修が企画されており、できるだけ参加できる環境を作り、自己のスキルの向上に努めることができている。又、グループホーム独自でも勉強会を行なっている。	初任者研修、現場研修、ウエルカム研修、認知症実践者研修、オープン研修など様々な研修が企画されており、できるだけ参加できる環境を作り、自己のスキルの向上に努めることができている。又、グループホーム独自でも勉強会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内で別サービス事業所と研修や交流を行なっている。運営推進会議では見学者として他社のグループホームの職員に出席してもらったり、当施設からも会議に出席することで意見交換や別な視点でサービスの考え方を学ぶことができ真の向上に役立っている。	社内で別サービス事業所と研修や交流を行なっている。運営推進会議では見学者として他社のグループホームの職員に出席してもらったり、当施設からも会議に出席することで意見交換や別な視点でサービスの考え方を学ぶことができ真の向上に役立っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時のインテークの時点でご本人との面接やご家族とのアセスメントをしっかりと行い、安心できる信頼関係を作り心掛けています。	サービス導入時のインテークの時点でご本人との面接やご家族とのアセスメントをしっかりと行い、安心できる信頼関係を作り心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には時間を掛けてご家族と話し合い、安心感を感じてもらいサービスを導入できるように努めている。ご家族のこれまでの、これからの不安を共感できるように耳を傾けるようにしている。	契約時には時間を掛けてご家族と話し合い、安心感を感じてもらいサービスを導入できるように努めている。ご家族のこれまでの、これからの不安を共感できるように耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される前に訪問して面接を行ったり、職員間での判定会議を行ない、入所ばかりを優先するのではなく、今のご本人の状況を知った上で一番適切な支援が何であるかを大切に、ご家族を巻き込む対応をしている。	入所される前に訪問して面接を行ったり、職員間での判定会議を行ない、入所ばかりを優先するのではなく、今のご本人の状況を知った上で一番適切な支援が何であるかを大切に、ご家族を巻き込む対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はユニットごとに固定している。馴染みの顔となり安心して暮らせる場を提供している。適宜各ユニットの職員が応援などで入ることも度々あり、イレギュラーな時でもユニットの職員でなくても馴染みの顔になっているので安心して介護を受けられる体制になっている。	職員はユニットごとに固定している。馴染みの顔となり安心して暮らせる場を提供している。適宜各ユニットの職員が応援などで入ることも度々あり、イレギュラーな時でもユニットの職員でなくても馴染みの顔になっているので安心して介護を受けられる体制になっている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの時はご家族にも参加してもらい手伝ってもらったり、共にご利用者を支えて行こうと言う意識は共通の気持ちを持っている。看取りにおいても最期をご家族と一緒に看取ってもらい、ご家族を巻き込みサポートできる関係を築けている。	行事などの時はご家族にも参加してもらい手伝ってもらったり、共にご利用者を支えて行こうと言う意識は共通の気持ちを持っている。看取りにおいても最期をご家族と一緒に看取ってもらい、ご家族を巻き込みサポートできる関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は設けておらず、いつでも来られる様になっている。親戚や友人、ご近所の方など来て頂いている。外出、外泊など積極的に進めており、馴染みの方との時間を持てるように支援している。	面会時間は設けておらず、いつでも来られる様になっている。親戚や友人、ご近所の方など来て頂いている。外出、外泊など積極的に進めており、馴染みの方との時間を持てるように支援している。	家族や関係者から入居前の状況を聴き、利用者の馴染みの関係や場所の把握をしている。家族の協力を得て、自宅や墓参り、馴染みの美容院、理髪店、高齢者学級へ向いたり、地域のバス旅行に参加することもある。近所の方、昔の生徒、職場の同僚等馴染みの方の面会も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性がもっとも難しく時と場合によって崩れることもある為、常に職員は関係性を把握して孤立しない環境を考えている。ご利用者が持っている個性を尊重しながら否定することなく柔軟な対応を心掛けている。	利用者同士の関係性がもっとも難しく時と場合によって崩れることもある為、常に職員は関係性を把握して孤立しない環境を考えている。ご利用者が持っている個性を尊重しながら否定することなく柔軟な対応を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで無くなられた後もご家族へのグリーフケアを行なうようにしている。亡くなられたり他施設に入所された後もご家族が顔を出してくれる場合もあった。	看取りで無くなられた後もご家族へのグリーフケアを行なうようにしている。亡くなられたり他施設に入所された後もご家族が顔を出してくれる場合もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みのスタッフが常に一緒にいることで、信頼関係を構築して表情や言動に注意してご利用者の思いをくみ取るように言う。ご家族とも連携しながら支援している。	馴染みのスタッフが常に一緒にいることで、信頼関係を構築して表情や言動に注意してご利用者の思いをくみ取るように言う。ご家族とも連携しながら支援している。	利用者の毎日の様子を、引き継ぎノートや気付きノートに記録し職員間で共有している。食べ物や外出、生活に関する事等の希望があれば対応を協議している。把握するのが困難な場合も表情やしぐさ等からニーズをくみ取り、希望に沿うような対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にご家族から情報の聞き取りはしている。またサービス後でも何気ない御利用者の言葉を大切に感じ取るようにしている。	サービス導入前にご家族から情報の聞き取りはしている。またサービス後でも何気ない御利用者の言葉を大切に感じ取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の引き継ぎノート、朝礼時の話し合い、ケア記録などを活用して情報共有しながら現状把握に努めている。	職員同士の引き継ぎノート、朝礼時の話し合い、ケア記録などを活用して情報共有しながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に沿った実行経過記録を使用し、プランに則ったケアが提供されているかケアマネが把握。月1回のケースカンファで意見を出し合う。また担当者会議やプランの同意説明を行なう中でご家族とも話し合い、情報を共有し介護計画を作成している。	介護計画に沿った実行経過記録を使用し、プランに則ったケアが提供されているかケアマネが把握。月1回のケースカンファで意見を出し合う。また担当者会議やプランの同意説明を行なう中でご家族とも話し合い、情報を共有し介護計画を作成している。	入居時は自宅や施設訪問し、本人、家族、ケアマネジャー等関係者と面接しアセスメントした内容を基に、介護計画を作成し、変更なければ6か月で見直す。毎月1回のミーティングでカンファレンスを行い、意見交換している。毎日、実行計画記録表に記入し参考になっている。入院等状況が変化した場合、家族、医師、看護師、ケアマネジャー等を交えて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンス、職員間の気づきは朝礼やノートで共有し、連絡ノートに落とし込む。ケアマネはこれらを鑑み計画書に反映させている。	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンス、職員間の気づきは朝礼やノートで共有し、連絡ノートに落とし込む。ケアマネはこれらを鑑み計画書に反映させている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **やさしい手グループホームこうふ西**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在のご利用者のニーズが何であるかを確認してサービス内容の検討をしている。	今現在のご利用者のニーズが何であるかを確認してサービス内容の検討をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や回覧板を通して地域資源を把握している。文化祭やお祭りなどに参加できるように支援している。	運営推進会議や回覧板を通して地域資源を把握している。文化祭やお祭りなどに参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時ご本人の状態や意向、ご家族の考えを確認した上で今までかかっていた医師か嘱託医である医師に移行するかの判断はご家族に委ねている。	入居時ご本人の状態や意向、ご家族の考えを確認した上で今までかかっていた医師か嘱託医である医師に移行するかの判断はご家族に委ねている。	入居前のかかりつけ医を受診する場合は家族の協力を得ている。受診の際は、口頭で様子を伝えている。事業所は、協力医の訪問診療が月2回あり、訪問看護も週2回ある。全員の利用者が訪問診療を受けている。体調に変化がある場合は、看護師に連絡し、医師の指示を受け、家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場でのアセスメントを基に介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護に相談、指示を仰ぐことで受診や医師との連携もスムーズになっている。	現場でのアセスメントを基に介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護に相談、指示を仰ぐことで受診や医師との連携もスムーズになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。又、嘱託医のDrからタイムリーに紹介状を発行してくれていることで病院関係者との情報交換も密にできている。退院時のカンファもご家族と参加して嘱託医とも情報共有できるようにしている。	入院時に医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。又、嘱託医のDrからタイムリーに紹介状を発行してくれていることで病院関係者との情報交換も密にできている。退院時のカンファもご家族と参加して嘱託医とも情報共有できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針をご家族に説明して同意を得ている。又、状態の変化によって緊急時や看取り時の方向性を検討して頂く場を何回か設け、双方のすり合わせができるようにしている。医療機関との連携も密にしている。	契約時に重度化の指針をご家族に説明して同意を得ている。又、状態の変化によって緊急時や看取り時の方向性を検討して頂く場を何回か設け、双方のすり合わせができるようにしている。医療機関との連携も密にしている。	入居の際に重度化や終末期について説明し、同意を得ている。重度化した場合は利用者の状況をみながら、家族、職員、医療関係者等の意見交換を実施している。事業所で出来る範囲のケアについて十分検討した上で、方向性が出た段階で医師の意見を基に、看取りの計画書を作成する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル、連絡網などを見える所に掲示し、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会なども開催している。	緊急時のマニュアル、連絡網などを見える所に掲示し、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会なども開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルを作成しており、研修も行っている。防災訓練は同敷地内の事業所と年2回は合同で実施している。	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルを作成しており、研修も行っている。防災訓練は同敷地内の事業所と年2回は合同で実施している。	地震、水害の対応マニュアルを作成し、防災訓練では火災を想定した避難訓練も実施している。同敷地内の他の事業所と合同訓練を実施し、利用者の誘導には相互に協力体制を取っている。地域の消防署や消防団の協力を得たり、避難所として受け入れる体制もある。年2回の訓練時には炊き出しも実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初任者研修時にテキストを読み混み、倫理マナー研修を実施。又、上長が講師となり年一回は倫理マナー研修に全員参加で過去一年の反省や振り返り等を含め、ご利用者の尊重とプライバシーの保護に努めている。	初任者研修時にテキストを読み混み、倫理マナー研修を実施。又、上長が講師となり年一回は倫理マナー研修に全員参加で過去一年の反省や振り返り等を含め、ご利用者の尊重とプライバシーの保護に努めている。	管理者が講師となり、初任者研修を行い、倫理・マナー研修をしている。個人を尊重するように呼称やトイレ誘導等に配慮し、引き継ぎ時に利用者の名前はインシヤルで言ったり、記録は目に触れない場所に保存している。年1回、部長が全職員対象に倫理・マナー研修を実施して啓発している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でできるだけご本人の思いや希望が表出できる会話をするようスタッフへ指導している。ご利用者の表情や言動を常に見る、聞く等で支援していくようにしている。	日常生活の中でできるだけご本人の思いや希望が表出できる会話をするようスタッフへ指導している。ご利用者の表情や言動を常に見る、聞く等で支援していくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを職員も把握しているのでその方のリズムを崩さない様に支援している。職員側の心のゆとりが無いとペースも崩してしまいがちなので意識して支援している。	一人一人のペースを職員も把握しているのでその方のリズムを崩さない様に支援している。職員側の心のゆとりが無いとペースも崩してしまいがちなので意識して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の今までの生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。できるだけご利用者の思いに沿うように任せている。又、衣類と一緒に買いに行き、選んでもらったりしている。	ご本人の今までの生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。できるだけご利用者の思いに沿うように任せている。又、衣類と一緒に買いに行き、選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週土曜日のランチは手作りランチの日としており、ご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作っている。共同作業のできる所を手伝って頂いている。外食したり、ランチバイキングなどを予定してご家族も巻き込み楽しんで頂いている。	毎週土曜日のランチは手作りランチの日としており、ご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作っている。共同作業のできる所を手伝って頂いている。外食したり、ランチバイキングなどを予定してご家族も巻き込み楽しんで頂いている。	副食は宅配だが、主食と汁物は事業所で作り、出来る方は皮むきや食器拭き、下膳等している。土曜日は手作りランチの日で、利用者の希望に応じた食事を作っている。ランチバイキングの時は、家族にも声を掛け、納涼会、クリスマス会、芋煮会、バーベキュー等も楽しんでいる。年2、3回外食の機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がメニューや食事のバランスを考えている。水分も好きな物が飲めるように数種類の飲物を用意している。水分量が極端に少ない方は一日分の水分量をチェックして飲んで頂ける工夫をしている。	管理栄養士がメニューや食事のバランスを考えている。水分も好きな物が飲めるように数種類の飲物を用意している。水分量が極端に少ない方は一日分の水分量をチェックして飲んで頂ける工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。週1回訪問歯科が入り口腔内のケアが必要な方には治療を行なっている。できるだけご本人が口腔ケアを行い、磨き残しなどは職員が援助している。	毎食後、口腔ケアを実施。週1回訪問歯科が入り口腔内のケアが必要な方には治療を行なっている。できるだけご本人が口腔ケアを行い、磨き残しなどは職員が援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のバターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排尿、排便の状況が把握できるようにしている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行ない出来る限りトイレで排泄できるようにしている。立位が困難な方でも二人介助を行なうことでトイレで排泄できるように援助している。	排泄チェック表を使用し、排尿、排便の状況が把握できるようにしている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行ない出来る限りトイレで排泄できるようにしている。立位が困難な方でも二人介助を行なうことでトイレで排泄できるように援助している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握している。自立している方も様子を見ながら排泄の確認をしている。ポータブルトイレを使用する方はいないがオムツ、リハビリパンツ、パット等を時間帯やリズムに合わせて使い分けしている。トイレでの排泄を安全に継続するために、日頃から利用者の可能な範囲で、立位や足腰の運動を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動量を多くする。水ずん摂取もこまめにする。排便チェック表で排便の管理を行ない、医師や看護師との連携でこまめな情報提供を行ない、時には内服での排便コントロールを行なっている。	活動量を多くする。水ずん摂取もこまめにする。排便チェック表で排便の管理を行ない、医師や看護師との連携でこまめな情報提供を行ない、時には内服での排便コントロールを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に最低二回は入浴してもらうように入浴回数表を作成し、確認しながら本人の良いタイミングを見計らい声掛けて入って頂いている。冬場のヒートショックなども注意して快適に入浴できるように支援している。	週に最低二回は入浴してもらうように入浴回数表を作成し、確認しながら本人の良いタイミングを見計らい声掛けて入って頂いている。冬場のヒートショックなども注意して快適に入浴できるように支援している。	入浴日は決めていないが、入浴回数表を使い週2回以上は入浴できるように支援している。ヒートショックを避けるために浴室を温めたり、入浴剤を変えたりして、楽しく安心して入浴できる配慮をしている。入浴を拒否する場合はタイミングをみて声かけし、受入れできるように時間をかけて支援している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節により居室の環境に配慮して気持ちよく眠られるようにしている。入眠前は穏やかに皆で談笑したりできる空間を作り、ご利用者の状態に応じた入眠を促す様に心掛けている。	季節により居室の環境に配慮して気持ちよく眠られるようにしている。入眠前は穏やかに皆で談笑したりできる空間を作り、ご利用者の状態に応じた入眠を促す様に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを誰でも閲覧できるようにし、各職員が服薬の情報を理解している。服薬の内容に変更が生じた場合は朝礼時や引き継ぎノートで情報共有している。誤薬などが無いように透明な小さい容器に入れ落下しない様に工夫している。薬についての勉強会も実施。	処方箋のファイルを誰でも閲覧できるようにし、各職員が服薬の情報を理解している。服薬の内容に変更が生じた場合は朝礼時や引き継ぎノートで情報共有している。誤薬などが無いように透明な小さい容器に入れ落下しない様に工夫している。薬についての勉強会も実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年の趣味など出来なくなったことで意欲低下になられる方もいるので、個々の今現在の能力を見だし、負担なく楽しめる役割を見つけて行ってもらう。	長年の趣味など出来なくなったことで意欲低下になられる方もいるので、個々の今現在の能力を見だし、負担なく楽しめる役割を見つけて行ってもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に左右される事もあるが、できるかぎり散歩したり、外気浴してもらう為、外でお茶を楽しまれたりするようにしている。誕生日などで行きたい所、食べたいものなど聞き出し、家族も交えてお連れする事もある。	気候に左右される事もあるが、できるかぎり散歩したり、外気浴してもらう為、外でお茶を楽しまれたりするようにしている。誕生日などで行きたい所、食べたいものなど聞き出し、家族も交えてお連れする事もある。	周辺を散歩したり、外気浴で外にテーブルを出して、お茶を飲むこともある。お花見、紅葉見物、外食などは隣接の事業所のワゴン車を借りて、ユニット単位で出掛け、家族が同行することもある。利用者の行きたい場所や食べたい物を聴き外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時にお金に執着ある方には小額のお金を所持してもらうこともある。貴重品の持ち込みは原則禁止とさせて頂いている。預り金としての名目でGHで管理して必要な時に一緒に買い物したり、自分で支払われるようにしている。	契約時にお金に執着ある方には小額のお金を所持してもらうこともある。貴重品の持ち込みは原則禁止とさせて頂いている。預り金としての名目でGHで管理して必要な時に一緒に買い物したり、自分で支払われるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいなどの希望のある方は適宜、掛けてもらっている。本人の希望通りに支援している。	電話を掛けたいなどの希望のある方は適宜、掛けてもらっている。本人の希望通りに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地の良い空間となるように環境を整えている。最近はいくつかのテーブルに変更し、状況に合わせてレイアウトしやすいようにして、ご利用者が混乱されない程度の家具の配置換えなどを適宜行って、以後個と良く過ごせる工夫をしている。	共用空間は居心地の良い空間となるように環境を整えている。最近はいくつかのテーブルに変更し、状況に合わせてレイアウトしやすいようにして、ご利用者が混乱されない程度の家具の配置換えなどを適宜行って、以後個と良く過ごせる工夫をしている。	各居室は廊下を挟み事務室からも見通しが良い配置になっている。2階は廊下に天窓があり明るい。トイレは車椅子対応で3か所あり、広くて使い易い。リビングは小グループで使えるテーブルが配置され、食事や活動の際も落ち着いて過ごせる。テレビの前は畳のスペースとソファがありリラックスできる空間になっている。共同作品や習字も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新規の方が入れられるだけでフロアの空気が一変するので、どのような居場所が個々のご利用者にとって安心できるのか、常に職員は観察しながら安心できる居場所を考えている。	新規の方が入れられるだけでフロアの空気が一変するので、どのような居場所が個々のご利用者にとって安心できるのか、常に職員は観察しながら安心できる居場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境はご本人やご家族に任せ、居心地の良い空間となるようにお願いしている。ご本人の状態に合わせて、居室のレイアウトを変更する時もある。	居室の環境はご本人やご家族に任せ、居心地の良い空間となるようにお願いしている。ご本人の状態に合わせて、居室のレイアウトを変更する時もある。	居室はベッド、クローゼット、チェスト、加湿器、カーテンは備え付けてある。仏壇、写真、趣味の作品、色紙等個々の利用者の思い出や大切な物として配置されている。清掃も行き届いており、クローゼットが広いのでチェストを入れ込んだり、オムツ等の日用品、洋服等も目に触れることなく整理できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取っており、それぞれの居場所を自分で選択して過ごして頂いている。バリアフリーとなっているので転倒などのリスクを回避して自立した生活が送れるよう支援している。	共有スペースを広く取っており、それぞれの居場所を自分で選択して過ごして頂いている。バリアフリーとなっているので転倒などのリスクを回避して自立した生活が送れるよう支援している。		